

愛知県大府市における「健康都市」政策とその効果

小川紘平（地理学専修）

－目次－

I はじめに

1. 研究の背景と目的
2. 先行研究と問題の所在

II 愛知県大府市における「健康」の都市づくりとその経緯

1. 日本における「健康都市」の展開
2. 愛知県大府市の概観と「健康」にまつわる都市政策

III ウェルネスバレー構想の実現に向けた取り組み

1. ウェルネスバレー構想と健康関連施設の展開
2. 大府市における市民参加型の「健康都市」関連イベント

IV 健康イベントの参加者からみた「健康都市」政策の効果

1. ウェルネスバレーめぐりの参加者における効果
 - 1) ウェルネスバレーめぐりの概要
 - 2) ウェルネスバレーめぐりの参加者の特徴
- 3) ウェルネスバレーめぐりが健康意識に与える影響
2. 森岡公民館健康寿大学の参加者における効果
 - 1) 健康寿大学の概要
 - 2) 健康寿大学が健康意識に与える影響
3. さわやか健康リレーマラソン参加者における効果
 - 1) さわやか健康リレーマラソンの概要
 - 2) さわやか健康リレーマラソン回答者の特徴
 - 3) さわやか健康リレーマラソンが健康意識に与える効果
4. 3つの「健康都市」関連イベントの比較分析

V おわりに

— 概 要 —

本論文は、WHO（世界保健機関）が 1980 年代に提唱した「健康都市」（Healthy City）概念のもとで、具体的にどのような都市政策や事業が展開され、一方で「健康都市」関連事業に参加する市民の側が、その参加を通じて「健康」に関する意識をどのように変えたのかを明らかにすることを目的とした。対象地域は、2006 年に「健康都市連合日本支部」に加盟し、比較的早い時期から「健康都市」の取り組みを行なってきた愛知県大府市とした。

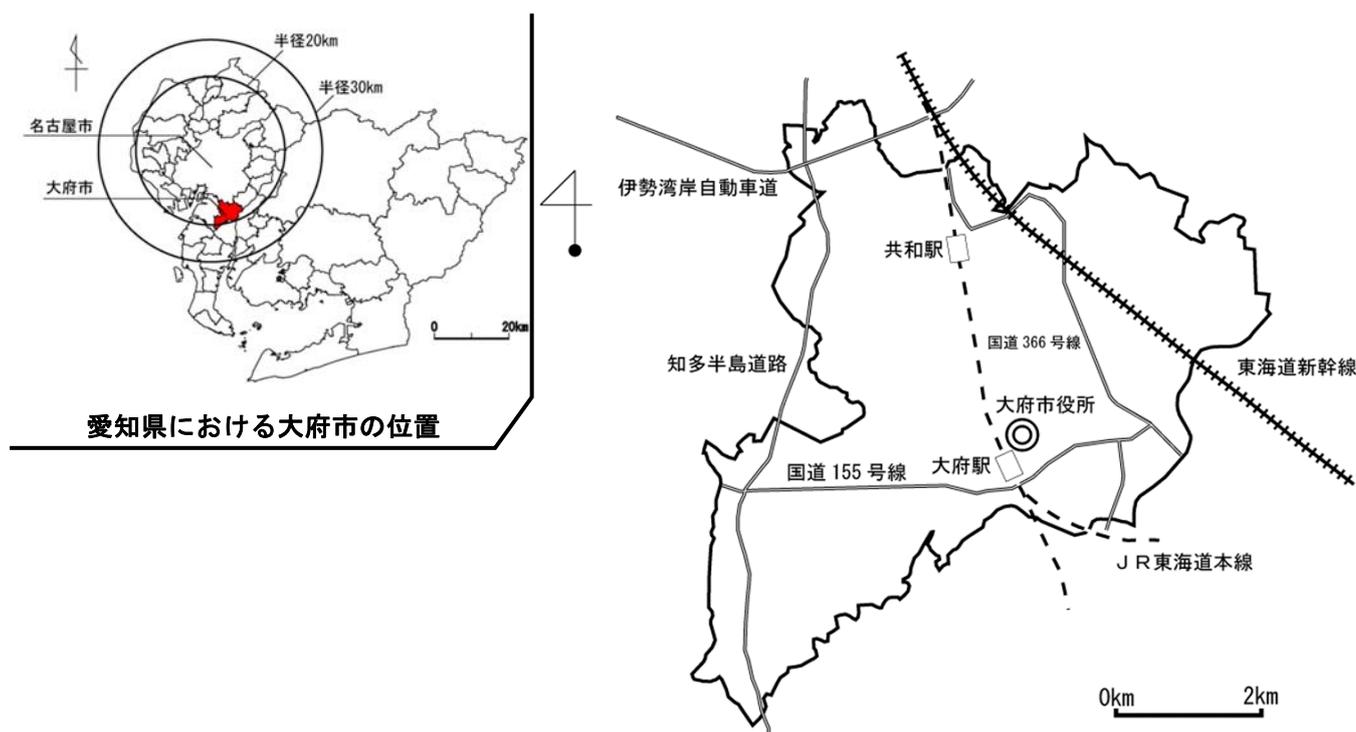


図 1 愛知県大府市の地域概観

(愛知県大府市ホームページ (<http://www.city.obu.aichi.jp/> (最終閲覧日：2017 年 1 月 3 日)) より作成)

大府市は、1970 年の市制施行以来、「健康」に関する政策を積極的に進めている。大府市は、「健康都市」を「市民一人一人が心身ともに健康であると同時に、市民が生活する地域社会や都市全体が健康であること」と定義し、市独自の事業として「ウェルネスバレー構想」を掲げてきた。ウェルネスバレー構想とは、市の南西部にある「あいち健康の森」とその周辺地区を「ウェルネスバレー」と称し、健康長寿の一大拠点の形成を目指すという構想である。ウェルネスバレーには、1990 年代後半から 2000 年代前半にかけて「健康都市」関連施設が集積し、現在では 11 施設が立地している（図 2）。大府市では、以上のように健康・長寿・医療関連施設が集積するウェルネスバレーの内部や、市内の公民館を中心に「健康都市」にまつわるイベントが多数開催されており、人々が「健康づくり」に

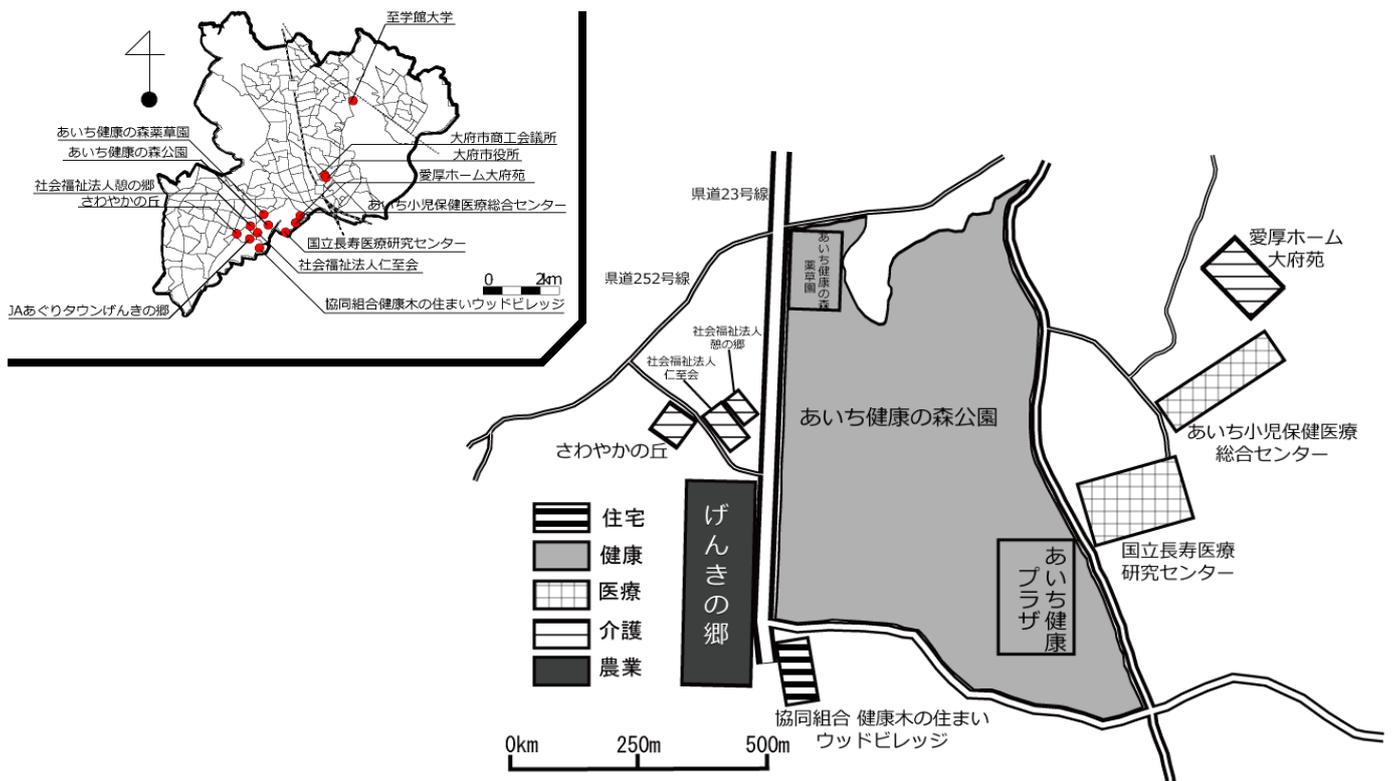


図2 ウェルネスバレー関連機関の立地とその種別

(愛知県大府市ホームページ、大府市役所ウェルネスバレー推進室提供資料より作成)

触れる機会が豊富に提供されているのである。

そこで本論文では、ウェルネスバレーや市内各公民館で開催される「健康都市」関連イベントのうち、①ウォーキングイベントのウェルネスバレーめぐり（回答者数 140 人）、②高齢者向けの健康寿大学（森岡公民館）（同 63 人）、③ランニングイベントのさわやか健康リレーマラソン（あいち健康の森公園）（同 113 人）の参加者を対象にアンケート調査を行なった。その結果、ウェルネスバレーめぐりや健康寿大学に関しては、7 割以上の回答者がイベントを通じて健康意識が「高まっている」と回答した（図 3、図 4）のに対して、アスリートの参加が多いさわやか健康リレーマラソンでは「かなり高まった」回答者が 8%（9 人）と極端に少ないという結果になった（図 5）。またこうしたイベント特性による差異だけでなく、年齢層や性別に注目すると（図 6）、たとえばウェルネスバレーめぐりにおいては男女ともに年齢層があがるにつれて健康意識が高まっていることが読み取れた。付言すれば、女性の方がやや低い年齢層でも健康意識の高まりを感じているようである。

以上、大府市内で開催される「健康都市」関連のどのイベントを通じても、参加した回答者全体では健康意識が高まったと答えている人の割合が高かった。ただし、参加者の性別や年齢層、大府市における「健康都市」関連イベントへの参加頻度、そして居住地等によっても、その効果には若干の違いがみられることが明らかとなった。たとえば、比較的誰にでも参加しやすいウェルネスバレーめぐりにおいては、大府市内に居住し、健康に関

するイベントに頻繁に参加している高齢者層で特に健康意識への効果がみられた。

大府市はウォーキングや体験講座、マラソンにいたるまで様々な「健康都市」関連イベントを開催しているが、今後はそれぞれのイベント特性や参加者の特徴が健康意識の変化の在り方を左右していることをふまえた取り組みが必要であると、本論文の結果から指摘できた。

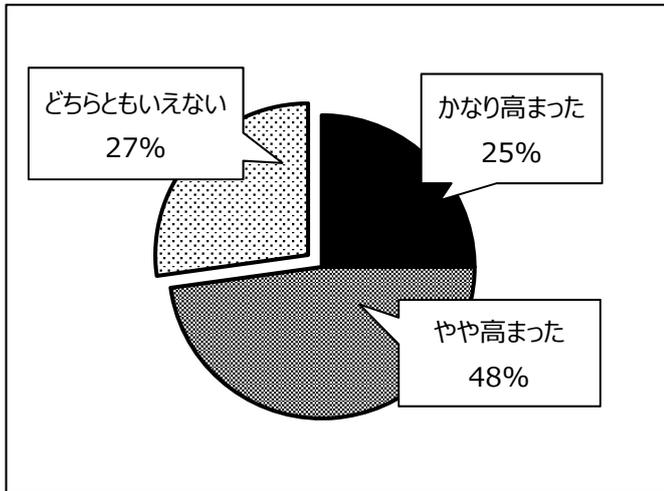


図3 健康に関する意識の変化（ウェルネスバレーめぐり）

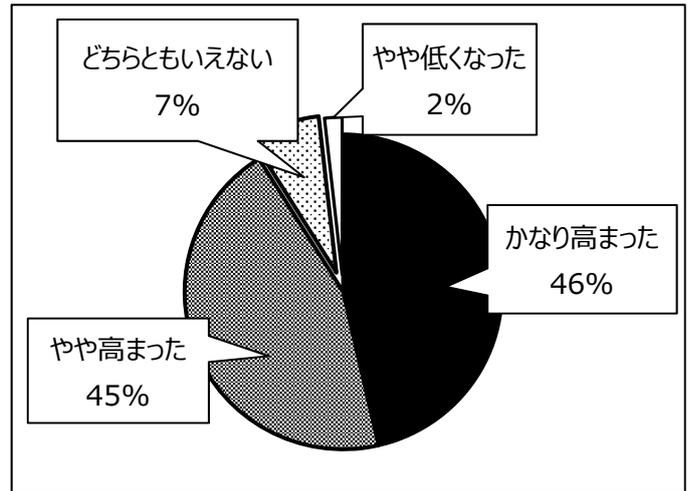


図4 健康に関する意識の変化（健康寿大学）

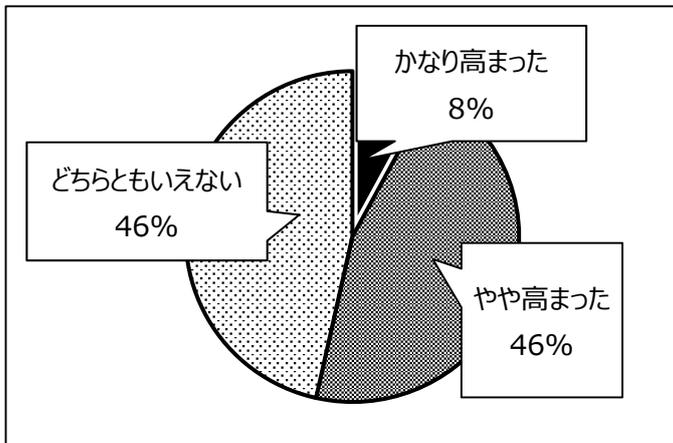


図5 健康に関する意識の変化（さわやか健康バレーマラソン）

（アンケート調査により作成）

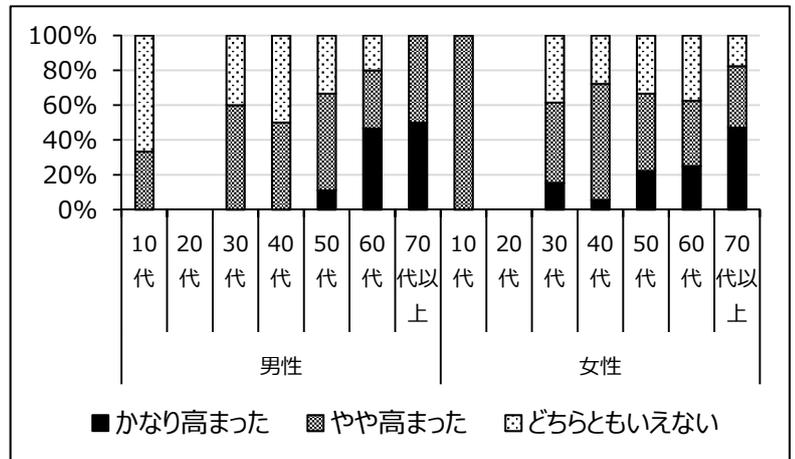


図6 性別年代別にみた健康に関する意識の変化（ウェルネスバレーめぐり）

（アンケート調査より作成）

注：10代男性は3人、10代女性は1人、20代の回答者は男女ともに0人であった。

論文の問い合わせ先：

指導教官 阿部亮吾（地域社会システム講座 准教授）

aberyogo@aecc.aichi-edu.ac.jp